

どうする？ どうなる？ 女性リーダー！

女性リーダーが増えるとどうなる？

女性リーダーが増えることで、一体何がかわるのでしょいか。

購買決定権の70〜80%を握る女性が商品開発などに携わると、生産と消費の両面から経済を活性化させることができます。

女性の役員比率が高い企業は、経営業績面において役員が男性のみの企業に比べると、ROE(株主利益率)が41%も高いという調査結果が出ています。(マッキンゼー&カンパニー「Women Matter」2010年)

また、女性は傾聴力、受容力、共感力などのコミュニケーション力が総じて男性よりも高いといわれています。このスキルを生かすことで職場が活性化され、人材が定着し、働きやすさの改善などが期待できます。

勇気を持って次の一歩へ

人口の半分は女性であり、消費者の半分も女性、そして有権者の半分も女性です。

女性の労働力が結婚や出産などにより一度落ち込み、子育てが落ち着いた40歳代に再上昇するという「M字カーブ」は解消傾向にあります。結婚や出産、介護など、ライフイベントによって働き方や生き方の変更を余儀なくされるのは、いまだ男性より女性が多いのが現実です。

政府が勧めるポジティブ・アクション(固定的な性別による男女の役割分担意識や過去の経緯から男女差がある場合、それを解

消するために、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取り組み)は、労働者一人ひとりの能力発揮を促進するだけでなく、企業にもさまざまなメリットがあります。

女性リーダーが増えることで、女性のみならず男性の仕事や生活のスタイルも変わるといわれています。同時に、性的少数者や障がいのある人など、多様な声を尊重し、取り入れることにもつながります。

女性リーダーに必要なのは特別な経験や能力ではありません。家事や育児、介護など、社会の重要な基盤を支えてきた経験や知識、そして何かを変えたいと一歩踏み出す勇気ではないでしょうか。この一歩が私たちの可能性を拓き、社会を変えることにつながります。(佐野)

オススメの本



LEAN IN リーン・イン 女性、仕事、リーダーへの意欲

- シェリル・サンドバーグ 著
- 川本裕子 序文 / 村井章子 訳
- 日本経済新聞出版社

1人のスーパーウーマンを輩出させるための書籍ではなく、著者が多くの女性が前へ踏み出せるようにとの願いを込めた勇気の沸く1冊です。



女性なぜ活躍できないのか

- 大沢真知子 著
- 東洋経済新報社

女性が働き続けることが難しいとされる現代の日本。著者の大沢真知子さんは日本女子大学の教授です。女性が活躍できない原因を分かりやすく示し、企業の取り組みや処方箋を紹介してくれま



仕事と家庭は両立できない？ 「女性が輝く社会」のウソとホント

- アンニ・スローター 著
- NTT 出版

社会で育児や介護など(ケア)の価値をもっと高めれば、男性も女性も生きやすい。著者は、ケアよりも競争が重視される現代に疑問を投げかけます。新しい生き方へ力がもらえる本です。



ビジネスマンの父より娘への 25通の手紙

- キングスレイ・ワード 著
- 城山三郎 訳
- 新潮社

カナダの実業家が娘へ送る、仕事について、家庭について、日々の行いについて…人生のアドバイスがぎっしり詰まった手紙。チャレンジすることの大切さや育児中のキャリアについてなど、学ぶことの多い1冊です。

自信がないのはなぜ？

平成26年に清瀬市役所職員を対象に行った「女性管理職に関するアンケート」によると、「女性職員が管理職になりたくない理由」として「管理職としての業務能力に不安がある」「自信がない」などが多いことが分かります。



“みんなと仲良くね” “女の子らしくしなさい” と親や周囲から言われて育った女性も多いのではないのでしょうか。

我慢をしたり周囲の目を気にして、自分らしく生きることを諦めたことはありませんか？

社会に出ると男性中心の中で “女性らしく” 振る舞うことを求められ、息苦しさを感じたことはなかったでしょうか？

コミュニケーション

自分の意見を「わたしは〜」で口にしよう。

自分に正直に、相手に誠実に。伝わるものがあるはずだから。

感情

泣いても良いんだよ。
怒りも楽しさも
感情って大事。
あなたの感情を大切に
受け止めて。

自己肯定感

最初からできる人なんていないし
できなくても恥ずかしくないよ。
自分を認めてあげよう。
完璧じゃなくて良いんだよ。
(子育ても！)